

西条

JANUARY
2009

No.382



336A地区
2R-4Z

Saijo Lions Club



2008～2009年度▶

国際会長プログラム

-We Serve- われわれは奉仕する キーワード：奉仕で奇跡を (Miracles Through Service)

336A地区ガバナーズスローガン

叡智と勇気・誇りをもってウィサーブ キーワード：和の心

クラブ会長スローガン

未来のために WE SERVE キーワード：健康な心



新春のご挨拶

第48代会長 寺川治美



明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年後半から、アメリカのサブプライムローン問題に端を発する金融不安が広がり、百年に一度と言われる凄まじいまでの不況が訪れ、その規模は全世界的であり、日本だけで解決できるものではないようです。一方、国内においては食品偽装による食の「安全・安心」に対する信用の失墜があり、また原油の高騰と急落など投機マネーゲームに振り回され、果てに突然の政権交代や年金問題・雇用問題・環境問題と様々な問題がクローズアップされた一年でありました。まだまだ先の見えない状況ではありますが、これからは、地に足をつけ、正しい倫理観を持ち、社会への貢献を行い、生命を護るために地球規模での活動を今まで以上に取り組み、これからより一層、ライオンズクラブとして社会奉仕活動を行うことが、求められているのではないかと思います。

私も残り半年になりましたが、これからまだまだ色々な奉仕活動が残っております、未来への不安が多い状況ではありますが、「暗」があれば「明」があると言う事で、未来への希望を持って、今期のスローガン「未来のためにウィサーブ」で頑張りたいと思いますので皆様宜しくお願い致します。



【 1月第一例会（清祓い式）の様子 】



本年も清祓い式を無事執り行うことができました。クラブと、メンバー共に元気で佳き年となるようお祓いをしていただきました。



『 喜寿の思ひ 』

L. 木下日出男



今年で私も77才の祝いをする事になり、年のたつのは早いものだと思います。ライオンズクラブに入会して早や37年間、社会奉仕に参加し皆様方の御指導により勇気と情熱と感動を得ることができました。これからも悔いのない人生を送りたいと思います。私の今年の年まわりは、やや良くて仕事運も良し、汗かく事で収入も自然とアップ。報われる年だそうです。これからは健康に気をつけないといけない年ですので、これからの米寿、白寿を目標に頑張りたいと思います。



『 古稀を迎えて 』

L. 十亀興美



若いつもりでおりましたが、いつの間にか我が人生も大きな節目となる古稀を迎えました。「歳月人を待たず」という格言がありますが、あっという間の70年でありました。

古稀は本来、杜甫の詩「人生七十古来稀」に基づくものですが、日本人は非常に節目を大切にしていきましたが、私も感慨一入のものがあります。

古稀といえば、私は昭和15年1月の生まれですが、同期生は主力が昭和14年のため、昨年が古稀に当たり、高校を卒業してより満50年ということで、第108期の卒業式(私たちは58期)に招待状をいただき、全国各地より約120名が母校に集い、感動の再会の機会を与えていただき、卒業生の「仰げば尊し」や在校生の「蛍の光」の合掌に往時を偲び、感涙にむせびました。父母の恩と共に学恩・我が師の恩があってこそその人生にあらためて感謝の思いを強くし、世のため人のため微力乍らも恩返しに務めなければと、誓いも新たにいたしました。

この思いは我が西条ライオンズクラブに入会させていただいたお陰で多くのメンバーと巡りあい、同じ志をもって「ウィ・サーブ」に努め今日を迎えられた恩義にも同様の思いをいたしております。

新年を寿ぎ、会員各位のご多幸を祈念申し上げ、本年も元気で奉仕させていただきます。

.....

メンバー表彰



2007-2008年度 クラブ会長優秀賞	野田明利 前会長
〃 クラブ会長クリスタルアワード	野田明利 前会長
2007-2008年度 100%幹事賞	山本新一郎 前幹事
会員キー賞(2名の会員を表彰)	L. 野田明利
会員キー賞()	L. 十亀興美

1月第2例会(第1134回)にて、各ラベルピンが渡されました。おめでとうございます。



会員短信

[石鎚酒造の酒蔵見学に行ってきました]

L. 仁後真貴雄

年の瀬押し迫る昨年の12月28日、石鎚酒造さんの酒蔵見学をしてきました。

まず専務さんから酒造りについてお話しいただきました。仕込み水には石鎚山系の水を使い「手造り」にこだわり、心のこもった酒造りをしていること、工場が広いこと、大小さまざまな樽の数々に驚きました。手をかけ、気をかけ細やかな心使いと、何より愛情のこもったお酒だからこそ、こんなにも魅了するんですね。程よい吟醸香とやさしい米のうまみとしっかりとした芯のある槽しぼり純米大吟醸、

ごちそうさまでした。



【 パリ・ヴェネツィア紀行 】

L. 寺川治美

10月25日ライオンズメンバーの非難を浴びるのを覚悟して関空より一路フランス・パリへと旅立ちました。約12時間のフライトでパリ・シャルルドゴール空港に着きます、パリとの時差は約7時間ほどでパリ着は10月25日のPM5時過ぎと1日得をしたこととなります。バスでパリ市内に向かうことにしました。この空港バスはオペラ座の裏側に着きます。大きなスーツケースをガラガラ引いてパリの街を少し歩き、メトロ(地下鉄)に乗り換えホテルへ向かいました。ホテルは少し郊外でミッテラン元大統領の名前が着いた駅で降ります。ホテルの名前はシャツ&パークホテルと言う名前です。「シャツと公園？」どういう意味か解りません。このホテルも3回目ですので要領は解っています。早速荷物をとぎ、先ずは日本食と言うことで、滞在型ホテルでキッチンが付いていますから日本より持参のうどんを夕食を済ませました。

翌日26日は日曜日で、ホテルの近くの教会の広場でマルシェ(朝市)が開きます、ホテルがキッチン付きなので早速マルシェで朝食の買物をする事にしました、マルシェは通路をはさんで両側に色々な品物売る露店が出て対面販売で品物を売っています。言葉は出来ませんが身振り手振り片言の英語で、朝食のくだもの・野菜・惣菜・フランスパンなどの買物をして、ホテルでゆっくりした朝食をとりました。本日はフランス在住の姪がアカデミックなスケジュールを計画しまして、まずはオルセー美術館の見学、ここは昔、鉄道の駅でして、印象派の画家の絵が沢山展示されています。皆さんご存知の有名な画家セザンヌ・マネ・モネ・ルノワール・ゴッホ・ムンク・ミレーなど沢山の作品が鑑賞出来ます。私などは高価な宝の山に見えました。

その後ルーブル美術館の中庭やパレ・ロワイヤルの中庭・日本食レストラン通りなどパリの街並を見ながら歩いてオペラ座へ向かいました。だいたいパリへ行ってオペラ座といえば前で写真を撮るくらいですが、なんと本日はオペラ座で本物のオペラ鑑賞です、題名は「売られた花嫁」、チェコの作品のようでチェコ語でやっているらしく舞台の上部にフランス語の翻訳が電子掲示板で流れていました。フランス語の翻訳が流れていても私にはさっぱり解りません、ただ姪から日本語のあらすじを書いた物をあらかじめ見せてもらっていたので何となく理解できました。予約した部屋は個室になっていて、映画などでオペラ鑑賞を小さな部屋から見ている様子がよくありますがあの様な感じです。薄暗い個室には6席有り、前から2つずつ椅子が並んでいて、前から値段が高いそうです。鑑賞しているのはほとんどがフランス人のようでした。私は眠気を我慢しながらの鑑賞で体が揺れていましたが、前の席のかなり年配の方でも、身動きしないで真剣に鑑賞している様子は、小さい頃から身についた芸術への関心の深さの違いなのではないでしょうか。またオペラ座で驚いたのは中心のドームの天井の壁画がシャガールでした。昔の建物ですから、宗教画の様な絵が描かれて居るのかと思えば、やわらかい感じのシャガールの絵でしたので驚きました。オペラ鑑賞を終えて外に出るとすっかり日が暮れていました、外ではパリの若者が賑やかな音楽をオペラ座の前で演奏していて、このギャップに少し戸惑いました。夕食を近くのレストランで去年食べて美味しかったムール貝で済ませ、その後作家ヘミングウェイが愛したホテル・リッツ内にあるバー、ヘミングウェイ・Barで少しお酒でも飲もうと出かけました。ヘミングウェイ・Barはとても小さな一角ですから満席で少し待ちました、ヘミングウェイの写真やゆかりの品物などを飾っていて、とても落ち着いた雰囲気のあるBarでした。パリの街を沢山歩き回り疲れしたので、常に移動はメトロでしたが今夜はお酒も入っていたのでタクシーでセーヌ川沿いを通り、帰ることにしました。

明けて27日はセーヌ川を遊覧して、エッフェル塔で昼食を予定していましたが、前日歩き疲れたのでホテルでゆっくりしてエッフェル塔のランチだけで済ませセーヌ川遊覧は取り止めました、これがプライベート旅行の良いところです。去年パリに行った時、エッフェル塔は沢山の行列が出来ていて上

がれなかったので、去年の教訓を生かし今年にはエッフェル塔中段のレストラン「ジュール・ベルヌ」を予約していましたから、沢山並んで居る人たちを見ながら専用エレベーターに乗り直通でレストランに上がり、エッフェル塔からパリの街を見ることが出来ました。パリの街を見ながらアラン・デュカス（3つ星レストラン）で昼間からワインを飲み、ランチを堪能して優雅な時間をすごすことが出来ました。今夜には夜行寝台列車でイタリア・ヴェネツィアに出発しますから、パリ市内やホテル近くのスーパーで少し買物をして早めにホテルに帰りました。

小雨の夜パリ・ベルシー駅から12時間かけて、夜行寝台列車で北イタリアを通りヴェネツィアへ出発しました。この時期フランスは、バカンスのシーズンで寝台列車は満席でしたが、キャンセル待ちで何とか取れたそうです。夜8:00頃に出発ですから景色は見えません。早々に寝床について寝ようと思いましたがなかなか寝着かれず、その内ウトウトと浅い眠りをしていますと、ミラノと言うアナウンスが聞こえ通路に出てみると、しばらくして【ミラノ・セントラル駅】に到着しました、昔の白黒映画の様な鉄のアーチ型の屋根の架かった趣きの有る駅でした。しばらく止まっている様子なのでミラノ駅のプラットホームに降りてミラノにも行ったことにしようと駅に降りてみました。それからは目がさえて眠れないので家内と食堂車で少しずつ明けて行く景色を眺めていました。やがて夜行列車はイタリア本土最後の駅【メストレ】を過ぎヴェネツィアに入りサンタルチア駅に着きました。

ヴェネツィアへの出入りは海を渡っている鉄道か道路しかありません。車は渡った所のローマ広場に駐車して、人だけがヴェネチアに入ります。入口は水上バス(ヴァポレット)で街に入る人で賑わっていました。姪もヴェネツィアは初めてですのでガイド役もここでは出来ません。私たちは言葉が出来ませんので頼るしか有りませんが、ヴェネツィアの中心サンマルコ寺院・サンマルコ広場をめざして水上バスに乗って行くのですが、中心の大きな水路を通過して左右の景色を見ながらゆっくり観光して行く予定にしましたが、その水上バスの乗り場を間違えてしまい、外港から快速で行く水上バスに乗ってしまいました。ヴェネツィアの街は大きなテーマパークの様です。さすが世界遺産！その景色は歴史を感じさせる素晴らしい街です。この街が沢山の木の杭を海に打ち込み、その上に建物が建てられ街が造られているとは想像もつきません。サンマルコ寺院の船着き場に着きますと、一応は聞いていましたがこの時期は海水が船着き場やサンマルコ広場にまで入っていました。ただ目の前でその現実を見ますとこれで大丈夫なのか、と思いました。広場は歩み板の通路で平然と観光客は歩き、店の人たちは一応に長靴を履き、水をあたりまえの様に吐き出していました。これが朝の開店前の作業なんのでしょうか、これが午後になると広場には海水がありません、不思議です。地球温暖化の影響で水位が上がり何十年後かには海に沈むと、言われているそうですが堤防を築いて世界遺産を護ろうと考えているように聞きました。私たちはサンマルコ広場に近いところにホテルを予約していましたので、まずはホテルで一休みし、街の散策に出かけました。水の都ヴェネツィアは3000の路地があり、400の橋があると言われているそうです。その橋の中心がリアルト橋です。この橋には沢山の観光客が来ます。この橋から見る水路左右のヴェネツィアの街並みはヴェネツィアの象徴の様な景色です。ここでの交通手段は歩くか、水上バスかゴンドラに乗るかです、そこで私たちもさっそくゴンドラに乗ることにしました。ただ日本人だと料金を高く言われるかもわからないので喋るなどと言われて、姪がフランス語で料金を聞いていましたが、聞いた値段が情報と一緒にだったみたいで安心して乗ることにしました。迷路の様な水路を通り、20分位ゴンドラに揺られながら街の風景を見て、その間に船頭さんがサンタルチアでも歌ってくれるのかと思っていましたがそれは有りませんでした。水路の橋から沢山の観光客がゴンドラに乗っている私たちを見ていました。どうもゴンドラに乗るアジア人はサマになっていないのでしょうか。ヴェネツィアの街は日本では室町から江戸時代の建物だそうでまるで建物全部が博物館の様です。ヴェネツィアはガラス・仮面舞踏会が有名で、いたる所にガラス・仮面を売る店が沢山ありました。仮面をつける事によって誰でも平等に接して舞踏会ができたと言うことらしいです。大人の恋を楽しんでいたのでしょうか？仮面舞踏会の祭りでは有名なサンマルコ広場のカフェ・フローリアンはカフェ発祥の地といわれている

まず、さっそく珈琲を飲まなくてはと注文しましたが何とカフェの前の広場で演奏している下手な音楽(ピアニストの姪に言わせればバイオリンの音がズレテルとの事です)もチャッカリ別会計で演奏代として勘定に入っていました、さすがヴェネツィアの商人(ベニス商人)と言う事です。

2日目はヴェネツィア本島以外に行ってみようと、ヴェネツィアの街が一番綺麗に見渡せると言う事で、水上バスで向かいのサンジョルジョ・マッジョーレ聖堂に行きました。この聖堂の塔から絵葉書のような朱色の屋根瓦一色の美しいヴェネツィアの街や水路が見渡せ、反対側はアドリア海、その向こうがクロアチアだそうですが、それは肉眼では見えませんでした。次にガラスで有名なムラーノ島に行くことにしましたが、この船着き場から水上バスだと1時間以上かかると言うことですので一度本島に帰り、別の船着き場から乗ると10分位と言うアドバイスでその船着き場を目指して歩きました。迷わないと15分位との事でしたが、当然のこの様に迷路に迷い込み1時間位歩きました、しかしヴェネツィアの観光でたぶん歩かない様な路地を歩きましたので、それはそれで良い観光になりました。途中の地元の店をのぞいたり、地元のカフェで食事をしたりイタリア人は非常に気さくで明るいので食事のお奨めを教えてくださいましたが、麺好きの私としてはせっかくのイタリアですのでパスタ三昧でした。ようやくムラーノ島に着きました、この島は昔ガラスの製造技術が外部に漏れないようにガラス職人を島に集め幽閉してガラスを造らせた歴史があるそうです。今は観光客がガラスを買わないと島から出さない!と言う情報です。あいにく雨が降りだし、少し降れば止むだろうと思っていましたがなかなか止みません。しかしせっかく島まで来ましたからガラス・ミュージアムは見学したいと頑張って傘を買って行きましたが、今日は休館日だそうで残念でした・・・。そうすると女性人は買物に興味をひかれ、長時間の買物タイムです。その間やる事もなく男性人は海を眺めていました。一応ムラーノ・ガラスを買いましたから無事に島からは出られました。

そのうち最終の水上バスの時間になり、慌てて乗船し今度は一時間位かけて、サンマルコ寺院の船着き場まで水上バスで帰りました。夕食はホテルで紹介してもらったレストランで食事をとりましたが、そこで何と今までの旅行で初めて財布を無くしてしまいました。ユーロだけ入れた財布ですのであまり入って居ませんでした。海外旅行の時にはお金とパスポートはなにより気をつけていたのに、ついに失敗をしてしまいました。この事がお金を無くした事よりも非常に悔しいです。

翌日、朝の散歩がてらレストランを訪ねると、店の人がいたので片言の英語で尋ねたところ、どうもタベのテーブルの担当者に電話をしてくれたようですが解らないということの様です。私なりの理解ですが・・・

3日目、本日は昨日の天気は嘘のように晴れ渡り非常に良い天気です。少しホテルから歩いてヴェネツィアで唯一の木製の橋アカデミア橋を見学し、そこから各船着場止まりの水上バスで水路からヴェネツィアを見学することにしました。水路沿いに市場がありましたので、降りて市場見学をして果物を買って食べたり、お土産を買ったりして気ままに夜の寝台列車の出発時間までを過ごしました。さて、楽しかったヴェネツィアともお別れをして又12時間かけてパリに夜行寝台列車で出発です。

翌朝パリに9:00頃到着しました。到着時間は約30分位遅れましたが遅れるのは常の事の様で、謝りのアナウンスもありません、日本では考えられません。パリはヴェネツィアに行く前より寒くなっていました。本日はまる一日、決まった予定無し、と言うことでホテルでまずはゆっくりし、コインランドリーで洗濯などをして「プチ・パリ暮らしの体験」と言う事です。その後パリ市内に出てそろそろ日本食が恋しくなりましたので、市場の内で日本人が作っている日本食屋が有るそうなので行くことにしました。

パリに有る日本食レストランは日本以外のアジア系の人たちが経営している店も多いようです。しばらくパンだけ食べていたのでご飯・味噌汁が非常に美味しく感じました。

翌日は雨で寒い日ですが、パリの人たちはあまり傘をささずに歩いています。すこし不思議な感じです。パリでは小学生は傘をさしては駄目らしいですがそのなごりでしょうか？パリ滞在も今日で最後。

一日楽しもうと雨の中、がらくた市で有名なヴァンヴの蚤の市に出かけました。去年は天気が良くてじ

っくりと品定めをしながら掘り出し物を値切り、交渉も楽しみながら探して蚤の市を歩きましたが、今回は雨で寒くて早々に切り上げて、市内の買物へと変更し、パリのデパートへと行きました。

1件目のプランタンは日本のデパートと同じ様な感じでしたが、2件目のギャラリー・ラファイエットと言うデパートは売り場の真ん中が吹き抜けで昔の劇場の様な内装になっていて、とても綺麗でした。

一見の価値はあります。街ではこの時期【焼き栗】を道端でいたる所で売っています。食べたくなり買うことにしましたが、私が言うと5ユーロ、姪が言うと3ユーロでした。これが言葉の壁と言うことでしょうか？

最後のパリの夕食は、今回の目的の一つでもあります姪の友人のアメリカ人【クレグ】に会いにクレグが経営しているアメリカンブレッグファーストの店へ向かいました。去年会っていたので、クレグも私たちに会うのを楽しみに待っていてくれ、再会を喜びあいました。ここのパンケーキとオムレツが非常に美味しいので、私も楽しみにしていました。クレグは男性ですが、フランス人のボーイフレンドがいて、今台湾に行っているそうです。この様な関係はパリには多いそうです。夕食後、出発の準備が有りますから早々にホテルに帰りました。出発の朝は日曜日です、またマルシェが開いています。少しの時間ですがマルシェでの買物を楽しみ、パリともお別れです。今回もよく利用したメトロに乗り空港行きの郊外電車に乗り換え、シャルル・ドゴール空港へ向かい、日本へと帰って来ました。「アア！やっとパンとシャワーから開放されます。」今回は環境汚染、地球温暖化の現地視察という目的がありましたが、また別の機会にどこかの現地視察に行きたいものです。

皆様もパリへ出かけられる事が有りましたら少しはアドバイス出来ることが有るかも解りませんので、よろしかったら声を掛けて下さい。メルシー・ボク！

【 LA・FIN 】



マルシュのある教会



オルセー美術館



オペラ座



サンジョルジョ・マッジョレ聖堂より



いとしの思い出



エッフェル塔



ベネツィア



巴里の街並み



サンマルコ広場

2008-2009 年度上半期例会出席報告

出席・計画委員会 委員長 高木和幸

例会名	例会純出席率	メイクアップ後
7月第1例会(第1121回)	90%	100%
7月第2例会(第1122回)	88%	100%
8月第1例会(第1123回)	89%	100%
8月第2例会(第1124回)	94%	98%
9月第1例会(第1125回)	96%	100%
9月第2例会(第1126回)	100%	100%
10月第1例会(第1127回)	94%	98%
10月第2例会(第1128回)	89%	100%
11月第1例会(第1129回)	94%	100%
11月第2例会(第1130回)	85%	100%
12月第1例会(第1131回)	94%	96%
12月第2例会(第1132回)	98%	100%
上半期例会出席率平均値	92.58%	99.33%

今年度もちょうど折り返し地点にやってきましたので、皆さんに例会出席率をご報告いたします。なんとか90%台を維持しております。日頃より、例会出席に対するメンバー皆様の意識の高さを物語るこの数値。我々委員会としても鼻が高いです。これだけの例会純出席を毎回果たしているクラブは、類を見ません。世の中が殺伐とした不況旋風が吹き荒れているこの頃ですが、月に2回、同じ志をもったメンバー達と顔を合わせ心を和ますひとときをもつことは、心の健康を保つ一番の秘訣ではないでしょうか。残りの後半戦もご協力の程お願い申し上げます。

【編集後記】

明けましておめでとうございます。タイムラグのある新年号でこういった出だしにはちょっと違和感を覚える方も多いと思います。しかし、私にとっては年中無休の営業店が2店あり、年末年始は女性スタッフが正月休みのため、それぞれの店に応援に入り、年が明けると新年挨拶での訪問客、成人式などでやっと落ち着いたなと思うのが1月の後半になります。それから、あれこれ今年の計画を練って2月節分を節目として1年のスタートを切るのがここ何年かの習慣になっています。そう言った意味では、冒頭の挨拶も自分にとってはあまり違和感がないのかなと思いつつ、今年もどうか皆様のご健康でご発展されます事を願って新年号の編集後記とさせていただきます。



PR・広報委員 福島 譲

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0027
西条市朔日市 779-8
西条商工会館3F
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 寺川治美
幹事 盛實正人
PR・広報委員長 近藤基弘
編集委員 仁後真貴雄 ・ 越智英明
木下日出男 ・ 内田 伸
福島 譲 ・ 伊藤隆治
例会日 第1・第3火曜日
例会場 黒猫レストラン
印刷 西条ライオンズクラブ事務局